

インクルーシブ教育 ～推進実践校に学ぶ～

▶ 神奈川県のインクルーシブ教育

神奈川県は、平成28年度より知的障がいのある生徒が高校教育を受ける機会の拡大を目的に、インクルーシブ教育推進実践校を3校指定しました。

令和2年度からは、県内全ての地域から通えるように、インクルーシブ教育推進実践校を新たに11校指定し、現在は14校でインクルーシブ教育に関わる取り組みを行っています。来年度はさらにインクルーシブ教育推進実践校が増えるとのことです。

今回視察した茅ヶ崎高校は平成28年度から、川崎北高校は令和2年度からインクルーシブ教育推進実践校に指定されました。どちらにも、特別募集という入試の枠で合格した「連携生徒」と呼ばれる、知的障がいのある生徒が在籍しています。40人学級の中で、2～3名程度、連携生徒が通常の入試で合格した生徒と一緒に高校生活を送っていました。

茅ヶ崎高校の取り組み

「誰にでも分かりやすく、易しい授業」を意識されているとのことで、連携生徒が40人学級の中でも学んでいけるよう、フロントゼロを心がけ、主要5教科はT・Tで授業をしていることが多かったです。活気あふれる授業の中、T・Tの教員が自然な形でサポートしているところが印象的でした。



川崎北高校の取り組み

授業のユニバーサルデザイン化に非常に力を入れていました。また、インクルーシブ教育を進めるにあたり、当初は教員間での温度差もあったそうですが、それを埋められるよう、研修や教員一人ひとりに丁寧な説明などを行い、学校全体でインクルーシブ教育に取り組んでいるというお話が印象的でした。



視察 memo



視察を終えて感じたことは、「田尻さくら高校は枠組みを設けずとも、インクルーシブ教育を行っているのではないか」ということです。

どちらの視察先も「インクルーシブとは何か」「どこまで配慮をすればいいのか」等、普段から田尻さくら高校の職員室で話題になっていることを日々考えているそうです。枠組みがある・ないに関わらず、答えがはっきりとあるものではありません。対生徒・保護者・教員が何をしたいのか、何ができるのか、どこまでやれるのか等、話し合いを重ねていくことが最善であると感じました。

▶ 田尻さくら高校で取り入れられそうなインクルーシブ教育



1 リソースルーム

インクルーシブ教育実践推進校では連携生徒が利用できるリソースルームという部屋が設けられていました。

連携生徒のみで行われる活動（進路活動等）で使用するほか、クールダウンが必要な時、教員に話をきいてほしい時など、連携生徒が自由に使うことができる部屋だそうです。

茅ヶ崎高校、川崎北高校どちらも現在はクールダウンが必要な生徒がいないため、主に進路活動の際に使用しているとのことでした。



学年ごとにリソースルームがありました。



2 ユニバーサルデザイン

インクルーシブ教育実践推進校では「フロントゼロ」をはじめとする様々な授業のユニバーサルデザイン（以下UD）化を図っていました。教員が授業に取り入れることで、生徒も自然とUDやインクルーシブ教育について考えられる環境作りにつながっているように感じました。生徒と教員がアイデアを出し合い、形になったUDが校舎のいたるところにありました。

また、川崎北高校では、「UD授業のヒント集」というパンフレットを教員チームが作成し、職員全体の意識向上に努めているそうです。

授業の流れが表示してあり、今、何をしているのかがとても分かりやすかったです。



一目で何をする教室なのかが分かる表示（ピクトグラム）は美術部の生徒が考えたものだそうです。

